グリーンブルーペーパー 2004年1月

● 目 次 ●

新「グリーンブルーペーパー」の発刊に寄せて　代表取締役社長　谷　學
グリーンブルーの海外事業
　　―環境センター案件への係わり―　総務・会計ユニット ISO 担当　藤村　満
グリーンブルー賞を受賞して：～その瞬間　茨城保守サブユニット　井関夏樹
今月のキーワード：JICA（ジャイカ）

新「グリーンブルーペーパー」の発刊に寄せて

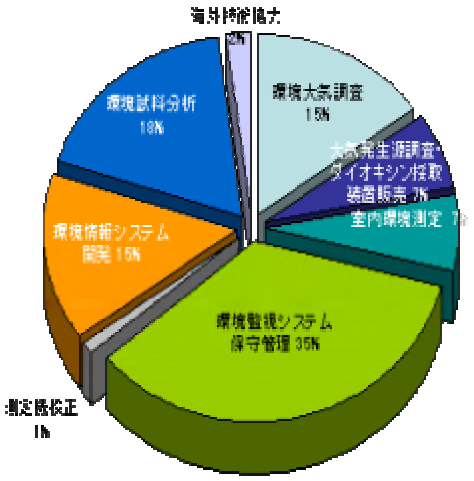
代表取締役社長　谷　學

グリーンブルーは、昨年の７月１日にオーエスラボを吸収合併し新生グリーンブルーとして新たにスタートいたしました。またこのとき、グリーンブルーをより分かりやすく理解していただくために、グリーンブルーホームページも更新いたしました。

しかし、私どもの情報発信が適切でないためか、あるお客様は「グリーンブルーは大気汚染自動測定機の保守管理会社でしょう」とか、またあるお客様は「環境情報システムを開発する会社でしょう」とか、また別のお客様は「計量証明事業所でしょう」と言ったように、私どもが手掛けるある一面の業務だけが会社のイメージとして強く定着しているようです。

グリーンブルーは図に示すとおり、環境監視システムの保守管理が 35%、河川水や工場廃水、大気ガス、粒子状物質など環境試料分析が 18%、自動車排ガスなどを中心とする環境大気調査が 15%、また環境情報システムの開発が 15%と、大きくは４つの業務領域でお客様から高い評価を戴いております。

最近ではこれらの業務に、燃焼排ガス中のダイオキシン試料を採取する装置の販売・据付・試験業務や、シックハウスやシックスクールに代表される室内環境測定を加え、また海外技術協力や大気汚染自動測定機の校正業務なども手掛けるなど、広い業務領域でお客様のニーズにお応えしております。



グリーンブルーの業務領域と実績〔2003年度実績〕

「え！グリーンブルーはそんな業務を手掛けていたの？」とお客様に言われないように、グリーンブルーが行う業務分野とその最新実績について、お客様に的確かつタイムリーに知っていただく目的から、今月から“グリーンブルーペーパー”を発行することとなりました。本グリーンブルーペーパーが皆様の有効な情報源となることを切に願っております。

グリーンブルーの海外事業　―環境センター案件への係わり―

総務・会計ユニット　ISO 担当　藤村　満

グリーンブルーでは、これまでにいくつかの海外案件におけるコンサルタント業務、専門家派遣等を行ってきました。ここでは特に「環境センター案件」と呼ばれるプロジェクトと当社の参加について紹介します。

1．環境センター案件とは

わが国では途上国に対して、数々のODA(政府開発援助)が供されています。環境省を中心とするODA案件として、これまでにタイ、中国、インドネシア、メキシコ、チリ、エジプトの各国において環境センタープロジェクトが実施されました。これらのプロジェクのでは、環境モニタリング／分析に必要な機材が「無償資金協力」(後述)によって導入され、技術移転のために専門家チームが派遣されました。

当社ではこれまでに以下の４案件に、環境モニタリング／分析機材計画のコンサルタントとして加わってきました。

①インドネシア	環境管理センター設立計画 (機材設計補強団員として参加)
②チリ	チリ国環境センター機材整備計画
③エジプト	地域環境監視網機材整備計画
④エジプト	第二次地域環境監視網機材整備計画

2．無償償資金協力とは

日本の政府開発援助(ODA)は、有償資金協力（円借款」：Loan）と相手国に返済の必要のない贈与（Grant）である「技術協力」、「無償資金協力」とに分けられます。無償資金協力は、開発途上国のなかでも国造りの遅れている国々に重点が置かれ、保健、水供給などの基礎生活分野（Basic Human Needs）を中心に、国の将来にかかわる教育、エイズ、人口問題、環境といった分野、さらに道路、橋などの基礎インフラ整備にまで及びます。

無償資金協力にはいくつかの種類がありますが、環境分野の協力は「一般無償」に含まれます。JICA（独立行政法人国際協力機構、旧国際協力事業団）は、これら案件が無償資金協力として適切かどうかを、技術的観点から評価します。

3．無償資金協力のスキーム

JICA が行う業務の形態には多数ありますが、特にこのように機材整備を行う「無償資金協力」は、独特のスキームで実施されます。無償資金協力が行われる手順は、フロー図に示すように、要請 ？ 検討・調査 ？ 審査 ？ 実施 ？ 評価・フォローアップという段階を経て進められます。

◆　案件の要請から採択まで

初めに現地国政府から日本政府に、どのようなことを援助してほしいという内容の「要請書」が、まずその国にある日本大使館に提出されます。その後、外務省で検討され年度の案件として採択されると、JICA に対して調査の指示が出されます。

◆　基本設計調査（検討の段階）

JICA は要請されたプロジェクトについて調査・検討を行います。この中心は「基本設計調査」と呼ばれ、官団員とコンサルタント団員から成る調査団により、無償案件としての技術的妥当性が検討されます。

基本設計調査を受託したコンサルタント会社は、機材の要請リスト等を整理して現地国側との協議資料を作成します。現地国側の活動計画や実施機関の体制について調査を行い、相手側との協議を通してプロジェクトにとって必要かつ十分なレベルの機材仕様や数量を決定します。個々の機材について３社から見積書を取り、それらをもとに一定のルールで事業費積算を行い、これらを「基本設計概要書」に取りまとめて現地承認を得て「基本設計調査報告書」を完成させます。

外務省はこの調査結果を踏まえ、プロジェクトの内容が現地国の開発上の課題に対応しているか、さらに二国間政策的な観点も含め、無償資金協力に適しているか否かを「審査」します。その後、閣議承認を経て次の「実施」段階に入ります。

◆ 実施段階と施工監理業務

日本国政府と現地国政府の間で、協力内容と予算上限について合意する「交換公文（E/N）」が結ばれます。この交換公文に沿って、その後は現地国側の機関がプロジェクトの施主（発注者）となり、日本企業が契約をしてプロジェクトが進められます。

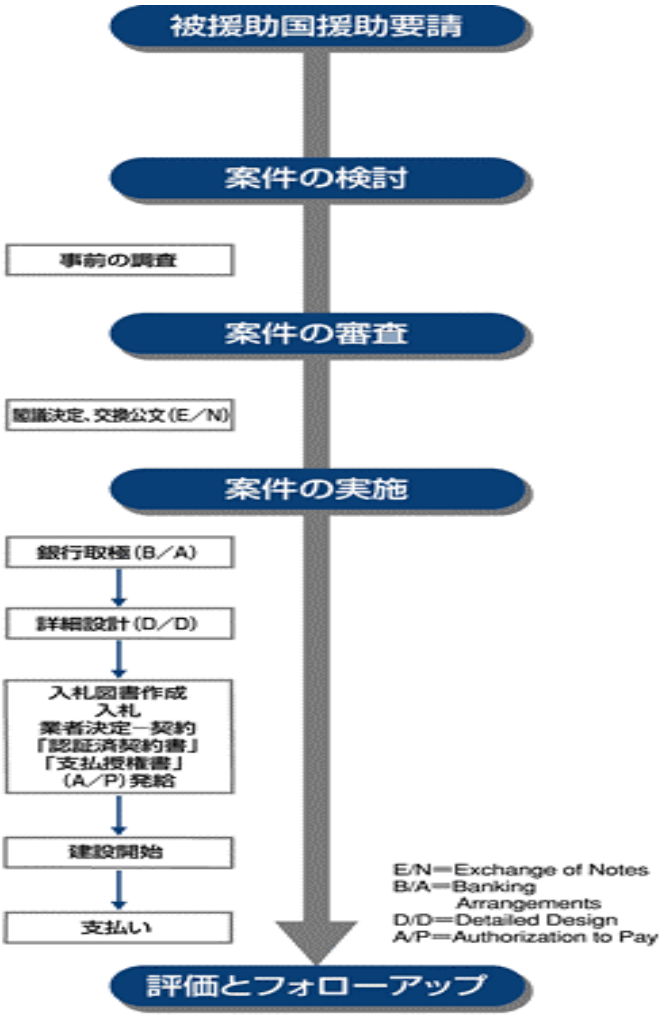
コンサルタント会社は施主に代わって、プロジェクト推進のため以下のようなサポート業務を行います。JICA に対しては適時、報告を行います。

①基本設計に基づいて、より詳細な機材仕様を明記した入札図書案を作成する。

②施主の承認を得た後、入札図書を応札希望者(商社)に販売する。

③入札会を開催し、落札した商社との間で契約交渉を行う。

④商社側の業者が機材の調達、輸送、現地への据付けを行う間、進捗状況に関する「施工監理」を担当する。据付け後の確認、施主への引渡しにも立ち会う。



（図は JICA ホームページより引用）

4．導入される機材

環境センタープロジェクトで導入される機材は、案件ごとの諸事情や現地側機関の組織体制、活動目的によって異なりますが、機器分析のための分析装置、ラボでの試料調製のための汎用実験室機材、サンプラー等のフィールド調査機材などがあります。場合によっては大気汚染自動監視システムが含まれる場合もあります。

今月のキーワード：JICA（ジャイカ）

わが国は世界に類まれなる「平和憲法」を堅持する国です。また、天然資源が乏しく、原材料の多くは海外からの輸入に頼っています。従って、わが国は安全保障や国民生活保全の観点からも可能な限り多くの国と友好関係を保っていく必要があります。わが国の外交政策で重要な位置を占めている政府開発援助（Official Development Assistance; ODA）のうち、無償資金協力と技術協力を独立行政法人国際協力機構(Japan International Cooperation Agency; JICA)が担当しています。

JICA は 2003 年 10 月 1 日に事業団から独立行政法人に機構が変更され、一般企業では社長にあたる理事長に緒方貞子さん（前国連難民高等弁務官）が就任し、本部に 2 局 20 部、国内関連機関（研究・研修施設等）17 機関、在外事務所 56 ヶ所、常勤職員約 1330 名、年間予算 1,697 億円の規模となっています。JICA では無償資金協力の他に「国民等の協力活動の促進」、「技術協力のための人材要請及び確保」、「緊急支援のための機材物資の備蓄、供与」、「国際緊急援助隊の派遣」等を行っています。身近なところでは世界の各地で発生する地域紛争や天災で難民になった方々への医療や物資の提供、ボランティア活動支援、海外青年／シルバー協力隊の派遣などがあります。皆様も新聞やテレビなどで目にされたことがあるのではないでしょうか？

（文責：営業開発ユニット 酒井 敬）

グリーンブルー賞を受賞して：～その瞬間

「えッ．．．まじぴょん？．．．頭の中真っ白」

茨城保守サブユニット　井関夏樹

「えッ…」という感じでした。グリーンブルー賞にノミネートされていることを聞かされたのは社員旅行の前日でした。夕刻の打ち合わせの後に金成サブユニットマネージャから候補の一人になっていると聞かされました。グリーンブルー賞は一年間でもっとも当社の環境保全活動に貢献した社員を表彰するために昨年創設されたもので、創立記念の社員旅行で発表されることになっていました。第一回の受賞者は長宗ユニットマネージャでしたから、グリーンブルー賞はマネージャクラス以上の人が受賞するイメージを持っていました。ノミネートだけでも充分光栄に思いましたし、当然ノミネートだけだと思っていました。特に意識なく当日を迎えました。

当日に緊張し始めたのはノミネート者の発表からです。昨年はノミネート者の発表はありませんでした。心の準備をしていなかったせいもあり、会場で名前を呼ばれただけで限界に近い緊張を覚えました。そして・・・、そしてまさかの受賞です。

確かに昨年から今年と忙しく仕事をしています。遠距離に出張ということがよくありましたが、遠方ということもあってこれらの業務は普段の現場と違って部品や装備などの不備がないように充分過ぎる程に注意しました。やり直しや期間の延長が利かない現場だからです。作業時間の配分まで細かく考えメンバーとすり合わせをしました。いつも「工程通りに終わるか」だけを考えていた業務です。いま考えても「良く乗り切れたなー」と思う一年間でした。

今年は違った意味での大変さを経験しています。一言で言えば「新しい部署の立ち上げ」です。メンバーは2名から７名に増え、メイン業務は新規受注した大気保守。新しい営業所ができた感じです。一人一人は経験者でも全体がグループとして機能するまでには時間がかかります。また必ずしも順調に動く機械ばかりではありません。

そんなうまく行かない状態の中でも心がけているのが「細かな報告」や「時間厳守」です。最初は「あまり怒られないように」という気持ちからでしたが、お客さんへの報告回数が増えると「自分への評価が会社の評価だと」思えるようになり、責任感も増してきました。そしていやなことも前向きに捉えられるようになりました。結果的にはそういった努力や心掛けがお客様の信頼や次年度への指名につながったと思います。

あとから思い出されるのは苦労ばかりですが、苦労も協力してがんばると評価につながるのかなと思います。そして一緒に苦労し協力し合えるメンバーを大切に思います。現在は茨城保守サブユニットで金成サブユニットマネージャを中心に動いていますが、ここでもその事を忘れずにこのメンバー全員で仕事をしている事を意識していきたいと思います。

話は戻ります。受賞の瞬間は「えッ．．．まじぴょん？（本当に？）．．．」と思っただけで頭の中が真っ白になってしまいました。受賞へのコメントも、「ありがとうございました。」と言うのが精一杯でした。本当にびっくりしていたのです。苦労したメンバーにはちゃんとしたお礼が言えず申し訳ありませんでした。この場を借りてお礼申し上げます。

「どうもありがとうございました。これからも一緒にがんばっていきましょう」

● 編 集 後 記

社内報「グリーンブルーペーパー」は、1977 年のホームページ開設と共に姿を消していましたが、このたび紙媒体とホームページ上の両方で発行することになりました。ホームページを訪れる社外の方も社員の方も、グリーンブルーペーパーを見た感想をお寄せ下さい。それを基により面白い紙面にしていく所存です。（堀江）

発行　グリーンブルー株式会社
URL:http//www.greenblue.co.jp/

横浜本社　〒221-0822　横浜市神奈川区西神奈川 1-14-12
Tel.045-322-3155　Fax.045-322-3133
東京本社　〒144-0033　東京都大田区東糀谷 5-4-11
Tel.03-3745-1411　Fax.03-3745-1413

編集人　堀江宥治